

祝

タケル君のタイガーマスクプロジェクトで、学校建設がスタート
 (報告) 理事長 宍戸 仙助



タケル君の優しい笑顔

今年6月の私の誕生日のことでした。妻を誘い近所の回転寿司の店へ食事に行ったときでした。入口の受付番号の機械から出てきたのは、何と、私の誕生日の番号。それだけでなく、席の番号は、妻の誕生日の番号。「ラッキー。でも、これだけのことで、誕生日の幸運が終わってしまうのも少し寂しいなあ。」と、妻と話しながら帰宅しました。

帰宅して、9時過ぎに、タケル君の試合前後の身体の調整などを担当されている奈良県の整体師の寺田猛さんから、久しぶりに電話がありました。すると、「タケル君が、宍戸さんと、ベトナムに学校を建設したいと話しています。候補校視察に案内していただけますか？」との連絡だったのです。

この吉報には、本当に驚きました。キックボクシングのK-1 WORLD GPで3階級制覇という偉業を成し遂げた、日本が世界に誇るキックボクシング選手の「タケル君」が、東北の小さな認定NPOであるシーエスアールスクエアと学校建設をしてくださるといのです。

さらに驚いたことは、「タケル君は、これまでプロレスラーだけが引き継いできた『タイガーマスク』の第7代目を襲名することになり、ベトナムの山奥の孤児院などの児童養護施設も訪問したい。6月24日には、フランス・パリで試合があり、その後、帰国したらすぐの、7月の初旬を予定してほしい。」ということでした。

それからは、怒濤の一ヶ月でした。CSRスクエアは、トゥエン・クアン省での海外NGOのライセンスは持っていますが、それは、教育と農業に関するプロジェクトのみです。児童養護施設は、「労働・傷病兵・社会局」が担当部署の施設です。このときに、力を貸してくれたのが、一昨年まで、ラム・ビン郡の副人民委員長であり、現在は、トゥエン・クアン省の教育訓練局次長のグエン・ヴァン・ヒエン氏でした。子どもたちのために、エアコン1台と大型(55インチ)テレビを準備し、文房具やお菓子を持参し、交流することができました。

7月12日からの建設候補校訪問では、訪問団4人の方々を案内して、トゥエン・クアン省、ラム・ビン郡のミン・クアン小学校バン・ドン校を視察させていただきました。ラム・ビン郡人民委員会やハノイの日本大使館も表敬訪問に立ち寄らせていただきました。帰りの飛行機を待つハノイ空港で、タケル君から、「僕、宍戸さんと、あの学校を建てたいです。」と、素敵な返事をいただくことができました。

数日間でしたがタケル君と一緒に旅をさせていただき、最も驚いたことは、タケル君の明るさ、誠実さ、穏やかさ、優しさと思いやり、礼儀正しさ、言葉遣いの丁寧さなどでした。この姿・からだのどこに、世界の数多くの選手たちを凌駕(りょうが)するあの闘志が秘められているのだろうと不思議に思える日々でした。



右から、教育訓練局長Vinh氏、副人民委員長Dat氏、宍戸、党郡副局長Phung氏、教育訓練局担当Giap氏、通訳Thanhさん

様々な準備を経て、10月16日に、再度現地へ赴き、バン・ドン校建設契約書への調印を済ませることができました。しかし、それからが、「産みの苦しみ」でした。調印式は済んでも、上部機関であるトゥエン・クアン省からの建設許可がなかなか下りて来ないのです。郡の教育訓練局へ何度問い合わせても、「まだです。」の繰り返しでした。

その朗報が届いたのは、この会報を編集集中の11月22日でした。無事にトゥエン・クアン省からの許可が下りて、建設会社も決まり、12月末には、現地で、起工式(着工式)を開催できそうです。いよいよ建設工事のスタートです。

建設状況は、facebookなどでも報告させていただきます。



ベトナム北部、Tuyen Quang省、Tuyen Quang市の児童養護施設の訪問

奨学金制度の新設 (山奥の貧しい中学生の「夢」を支えるために)



教育訓練局の一室に集まり待っていてくれた奨学生

ベトナム北部の山奥の貧しくとも勉強が大好きで、成績が優秀にも関わらず、自分が生まれ育った村に中学校が無いなどの理由で、中学校生活が難しい子どもたちのために、昨年より募集させていただいてきました奨学金支援ですが、昨年度46人の支援者の方々から約110万円、今年度になり、二人の支援者の方から13万円、合わせて123万円の支援金をお預かりすることができました。

その支援金をもとに、今年6月の訪問で、8人の奨学生を選び、教育訓練局担当者と各学校の校長を経由して、それぞれの子どもたちに奨学金を授与することができました。

(詳しくは、ホームページの<https://csr2.or.jp/scholarship/>をご覧ください。)

今回の訪問に同行いただいたのは、この奨学金支援制度の発起人であり、大きな支援者の一人、蔦木淳二様と、CSRスクエア熱量MAX隊の呼びかけ人である真鍋秀則様でした。6月25日のお昼前に、現地の人民委員会教育訓練局に到着すると、役場から遠く、夏休み中でもあるため両親や祖父母に送られて、選ばれた8人の中学生が集まってくれていました。8人のうちの一人は、どうしても都合が悪く、おばあちゃんが参加してくれていました。一人一人に将来の夢を聞き、奨学生としての心構えについて話し合いました。

英語に訳された一人一人のプロフィールを読んでいると胸が苦しくなりました。4人家族で、年収12,000円で暮らしながらも、成績優秀で、将来、医者になりたいという女子生徒。同じく成績優秀で、叔母(40)・弟(4)・弟(3)の4人暮らし。母(35)と継父(33)は、ラオスに出稼ぎ中で、叔母の年収18,000円で暮らす極貧家庭の男子生徒、面接では、教師になって、叔母さん・お父さん・お母さんを支えてあげたいと、はっきりと語ってくれていました。読んでいただけで貧しく厳しい日々の生活が目に見え、読み続けることができなくなりました。

せめて、「日本からの支援者の方々訪問したときだけでも」と、ラム・ビン郡の観光名所であるナ・ハン湖のボートクルーズに招待しました。ほんの少しだけ、ここにあるボートに乗ったことがあるという生徒が、8人の中に2人おりましたが、ボートの上で振る舞われた料理には、「こんなに美味しいものが、食べきれないほどあるのを見たのは、生まれて初めてです。」と、驚いていました。



教育訓練局の入口での記念撮影、中央の右が、教育訓練局長Vinh氏

一人の身体の小さな中学生の女の子、あまり食べないので、「どうしたの？美味しくないの？」と尋ねると、涙目になって、「これ、残ったら少しいただけますか？うちのおばあちゃんにも、食べさせてあげたいので、少しでいいのでいただけませんか？」と、言うのです。あまりのいじらしさに、「いいよ、たくさん持ってお帰り。」と、答えてしまいました。

今年度も、奨学金は募集を続けております。来年は、さらに新しく8人に奨学金を支援したいと考えております。右のQRコードなどから、皆様からのご支援を、なにとぞ、よろしくお願いたします。



ボートクルーズで昼食を食べる奨学生たち



三年ぶり、先生方を案内してのスタディツアー

2019年に18人の先生方を案内して実施したスタディツアーから3年。コロナ禍が明けて、再度実施することができました。

今回(8/5-9)は、東京・神奈川・福島の先生方9人、絵本を世界中にプレゼントする団体・大阪在住担当者の親子3人、東京の薬剤師さん、そして、ホーチミン市で、日本の著作権事業を展開する会社員2人、通訳とその補助の大学生5人、ハノイの会社で日本語翻訳などで働くベトナム人の会社員2人など、多彩な全員で22人。

8/5に、ハノイの空港から西へ向かい、トゥエン・クアン市のホテルで一泊し、8/6は、車で3時間走り、ラム・ビン郡へ。現地ですべてのボランティアガイドの女子高校生に案内していただき、ナ・ハン湖クルーズと昼食。途中で島に下りて滝を見学し、水着に着替え、滝つぼでドクターフィッシュと戯れ、ホームステイと呼ばれる雄大な景色の中にある民宿へ。夕方、次の日にお世話になる小学校の先生方10人を招待して、民宿の台所を借りて日本人で作ったカレーライスを食べ、交流をして就寝。

8/7は、いよいよ、アグリバンク (Vietnam農業農村開発銀行) で支援して建てられたクオン・ハー小学校へ。あいにくの雨でしたが、この学校には珍しく体育館があり、そこで、ミニ運動会での交流、タイ族・ザオ族・パテン族・モン族などの子どもたち全員に絵本「えんとつ町のプペル」(360冊)や運動用具・遊び道具・クレヨン・カラー粘土などをプレゼント。午後は、自転車や電動カートで地域散策と民宿のプールでひと泳ぎ。夕食のあと、現地の民族舞踊の2つの団体、約35人が民宿に来てくれて、それぞれの山岳少数民族に昔から伝わる歌や踊りを披露してくれました。最後には、日本から持参した音楽に合わせて、全員で大きな輪になり、盆踊り「東京音頭」をいつまでも踊っていました。

8/8は、ラム・ビン郡人民委員会教育訓練局を表敬訪問させていただき、教育訓練局長Vinh氏に記念品の贈呈。現地の幼稚園や中学校なども見学させていただき、別の民宿へ移動。村の中心部にある民芸品店に立ち寄り、民族衣装の試着などもさせていただく。最後の夜は、現地教育訓練局の人々6人が民宿を訪問してくださり合同の大宴会。食べる・飲む・歌う・踊るで、これほどのフィーバーぶりは、初めての経験。現地の人々も、「日本には、こんなに楽しく・面白い先生がいるのですね。日本の子どもたちは、幸せですね。」と、コメントしておりました。参加してくれた若い先生からは、「教員として、教えること、学ぶことの本質を探す一生に一度の素晴らしい体験ができました。」との感想をいただきました。



8/6, トゥエン・クアン市出発前の全員



8/7, クオン・ハー小学校での絵本贈呈



ホームステイ「タイ・ギャオ」の前で



パテン族
民族舞踊の
一場面。
この後、
みんなで
東京音頭を
何回となく
踊り続けました。

一人だけ、ベトナム人がいます。どの人？



通訳の女子たちへプレゼントされた「浴衣姿」で

2023年4月～2023年9月の正会員・法人会員、寄付者名（敬称略）

◆ 正会員・法人会員 ◆

北海道	柿崎 幸至	東京都	吉野 佑
同	山本 禎	同	吉村 康佑
宮城県	佐藤 緑	神奈川県	猪俣 貴子
同	佐藤美奈子	同	楫 富久也
山形県	斎藤 秀紀	同	川原 淳
栃木県	片瀬 英彰	同	小林 暉
同	田崎 真	同	小林みゆき
同	柳 文男	同	佐々木徳三郎
茨城県	理崎 比治	同	佐藤 純子
埼玉県	太田 光紀	同	佐藤 洋平
同	(匿名希望1名)	同	清水 昌也
千葉県	石塚 勝巳	同	園部 和弘
同	太田 利彦	同	松下 伸廣
同	小林 弘英	同	横谷 進
同	中込志津子	同	吉田 紘樹
同	藤原 勝子	富山県	河内 和宏
同	水沼 武二	静岡県	大石 孝裕
東京都	吾妻 隆一	三重県	久我 公亮
同	石川 雄大	同	村上 晴紀
同	伊勢 英子	大阪府	角谷 智志
同	岩本 悠佑	同	山口 拓也
同	大岩 龍矢	奈良県	寺田 猛
同	太田 勝己	兵庫県	石原佳代子
同	木島 良三	同	柴野 建夫
同	小牧 雅美	同	谷川 亮
同	清水 誠	同	桧垣 拓司
同	菅原 典彦	島根県	妹尾 由香
同	世川 武尊	福岡県	松本 牧子
同	高橋 雄志	(居所不明)	小野 愛里
同	高見澤浩介	福島県	相沢 寛人
同	田上 博子	同	伊東 廣樹
同	田中 里美	同	伊藤 稔
同	ダニエル・フラス	同	岡崎 忠昭
同	玉置 梨絵	同	柿沼 孝明
同	蔦木 淳二	同	柏 正二
同	富塚由美子	同	片野 宗和
同	徳永佐智代	同	神岡 祥恵
同	徳永 真	同	菅野 元一
同	中田 伸代	同	菅野八百子
同	西川 敬子	同	齋藤千賀子
同	平沼 京子	同	齋藤 典子
同	古庄 司	同	佐藤 貴一
同	真鍋 秀則	同	佐藤美保子
同	宮田 顕	同	穴戸 仙助
同	柳田 邦男	同	穴戸美紀子
同	柳 裕之	同	島田 荘

福島県 鈴木いくえ
同 高信由美子
同 高橋 智里
同 富山 幸子
同 長原 美香
同 西坂 勲
同 林 克重
同 福田 文子
同 本田 紀生
同 室井 君男
同 室井 公子
同 山本 和宏
同 吉川 哲也
同 渡辺とし子
(匿名希望1名)
(以上107人)

◆ 法人会員 ◆

大阪府 松原工務店
福島県 ハヤシ製作所
(以上2社)



◆ 寄付者 ◆

宮城県 佐藤 緑
同 佐藤美奈子
埼玉県 近藤 敏
茨城県 理崎 比治
千葉県 経営革新塾
しょう会
同 藤原 勝子
同 光安 輝雄
東京都 伊勢 英子
同 岩松 廣行
同 株式会社
STR
同 大岩 龍矢
同 板橋区立
志村第二中学校

◆ 左下寄付者の
つづき ◆

東京都 世川 武尊
同 時東 あみ
同 南雲 利明
同 中田 伸代
同 日本寄附財団
同 平井 隆一
同 真鍋 秀則
同 柳田 邦男
同 渡邊 直子
神奈川県 川原 淳
同 佐藤 洋平
同 西垣 文男
同 松下 伸廣
同 横谷 進
静岡県 大石 孝裕
三重県 久我 公亮
同 村上 晴紀
大阪府 芦田 衛
奈良県 寺田 猛
兵庫県 桧垣 拓司
同 小平 一夫
同 菅野八百子
同 柏 正二
同 齋藤 典子
同 高信 栄一
同 郡山市チャリティ
クリーン活動
同 西坂 勲
同 日本旅行東北
同 ハヤシ製作所
同 林 克重
同 福島第三小学校
同 渡辺とし子
同 (匿名希望2名)
(居所不明)ゲエン・ティ・ボン・フーン
(以上48人)



認定NPO法人 シーエスアールスクエア (CSR²) (輝く学校広場)
Challenge for School Revival & Corporate Social Responsibility

〒960-8136 福島県福島市八島町6-29 TEL 090-2604-4226 FAX 024-533-2612

(ホームページ) <https://csr2.or.jp/> (facebook) <https://www.facebook.com/Kagayakugakkou>

E-mail: shishido.csr2@gmail.com

